実施学科課程表（2017～2023入学生）

社会イノベーション学科　（令和6年度）

分野	授業科目	新授業科目名	開講年	実施時期	学科基盤科目	副専門科目			レベル	受講可能年次	担当者	教員免許該当科目	グローバル科目	ページ	備考
						経済	経営システム	地域システム							
イノベーションと経営分野	アントレプレナーシップ入門	サステナブル・リーダーシップ入門	6	前					基礎	1年以上	河野・渡邊・松隈・仲本			1	
	大分のものづくりと地域づくり	大分のものづくりと地域づくりⅠ	6	後					基礎	1年以上	河野・渡邊			2	
	製品開発論	製品開発論	6	後	○	○	○	○	中級	2年以上	仲本			3	
	市場開発論	市場開発論	6	後			○		中級	2年以上	松隈			4	
	組織革新論	組織革新論	6	後			○	○	中級	2年以上	本谷			5	
	研究開発マネジメント論Ⅰ	研究開発マネジメント論	6	前	○				中級	2年以上	河野			6	
	ベンチャー起業論	サステナブルビジネスと起業	6	前	○		○	○	中級	2年以上	渡邊			7	
	金融イノベーション論	※なし	6	後		○	○		中級	2年以上	（非）鵜崎			8	
	イノベーション戦略論	※なし	6*	前					応用	3年以上	仲本			9	
	研究開発マネジメント論Ⅱ	※なし	6*	後					応用	3年以上	河野			10	
	ベンチャー実践論	サステナブルビジネスと実践	6	後					応用	3年以上	渡邊			11	
	ビジネスモデル論	ビジネスモデル論	7*	後					応用	3年以上	松岡				
	ブランド論	※なし	7*	後					応用	3年以上	松隈				
イノベーションと社会分野	社会調査法	社会調査法	6	後		○	○	○	中級	2年以上	中本			12	
	イノベーション社会論	イノベーション社会論	6	前				○	中級	2年以上	豊島			13	
	現代社会分析論	※なし	6	後				○	中級	2年以上	豊島			14	
	イノベーション科学技術論	大分のものづくりと地域づくりⅡ	6	後					中級	2年以上	渡邊			15	
	ソーシャルイノベーション論	※なし	7*	前					応用	3年以上	豊島				旧カリ応用なので2年間不開講は不可
	NPO・NGO論	※なし	不開講						応用	3年以上					
	技術革新論	※なし	不開講						応用	3年以上					
	知的財産論	※なし	6	後					応用	3年以上	非（野田）			16	
イノベーションと経済分野	進化経済学Ⅰ	※なし	6	前		○			中級	2年以上	下田			17	
	ゲーム理論	ゲーム理論	6	後	○	○			中級	2年以上	下田			18	
	イノベーションの経済学	※なし	6	前	○	○			中級	2年以上	下田			19	
	イノベーション学説史	※なし	6	前・集中					中級	2年以上	非（金子）			20	旧カリ中級の毎年開講科目のため
	制度の経済学Ⅰ	制度の経済学	6	前		○			中級	2年以上	田村			21	新設と旧カリ科目の対応関係
	R&Dの経済学	※なし	不開講						中級	2年以上					
	都市イノベーション論	※なし	不開講						中級	2年以上					
	進化経済学Ⅱ	※なし	6*	後					応用	3年以上	下田			22	旧カリ応用なので2年間不開講は不可
	制度の経済学Ⅱ	※なし	6*	後					応用	3年以上	田村			23	旧カリ応用なので2年間不開講は不可、新設と旧カリ科目の対応関係
	組織と情報の経済学	※なし	不開講						応用	3年以上					
	商取引の経済学	※なし	不開講						応用	3年以上					

※開講年に「＊」のある科目は隔年開講の予定である。
※上記「副専門科目」に〇がついている学科の学生にとって、左の科目が副専門科目となる。
社会イノベーション学科の学生が経済学科の副専門科目を履修したい場合は、経済学科の実施学科課程表を参照し、
社会イノベーション学科の下に〇がついている科目を履修すること。

※グローバル科目欄に「〇」のある科目は，国際フロンティア教育プログラム・グローバル科目であるため，
全て英語による授業を行う。詳細は，教養教育科目ガイドブックを参照すること。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	サステナブル・リーダーシップ入門(Introduction to Business Leadership and Sustainable Management)　（旧科目名：アントレプレナーシップ入門）	経済学部目 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	経済学部	前期	木5	氏名　河野　憲嗣 E-mail　kouno-kenji@oita-u.ac.jp　内線　7679（河野）

授業の概要

「サステナブルな社会の実現」や「SDG'sの実践」といった話を聞く機会が増えてきました。そこで改めて、なぜこうした考え方が求められているのか、現在に至るまでの流れを整理し、その重要性や課題への理解を深めます。
サステナブルな社会は現在の延長線上にはありません。実現には前例のない挑戦が必要となります。そこで求められるリーダーシップとは何か。そもそもサステナブルやリーダーシップとは何か。言葉の本質への理解を掘り下げながら、自分たちの生きる未来を主体的に創る責任と方法を学びます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	サステナブルという言葉が使われる経緯や意味などを理解して具体的に説明できる。		○									
目標2	リーダーシップの基本や多様性を理解して主体的に実践できる。				○							
目標3	サステナブルな社会づくりに取り組むリーダーシップについて自分の考えを持って意見が述べられる。				○							
目標4	自分たちが生きる未来を自ら創るプランを策定して発表できる						○					
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	オリエンテーション　サステナブルとリーダーシップ
2	サステナブルを巡る議論
3	SDG'sという物語
4	持続可能な社会への取り組み
5	自分たちの生きる未来（課題提出）
6	リーダーシップを巡る議論
7	多様なリーダーシップ
8	スキルとしてのリーダーシップ
9	特別講義（サステナブル・リーダーシップの実践者によるお話）
10	あなたのリーダーシップ（課題提出）
11	サステナブルな社会のためのリーダーシップ
12	サステナブルなリーダーシップとは
13	課題のプレゼン１
14	課題のプレゼン２
15	講評、ふりかえり

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	○
C:応用志向	○
D:知識の活用・創造	

・学習内容を理解していることを確認するための課題、成果物を作成してもらいます。
・演習や課題の提出と共有やプレゼンの機会を取り入れて、知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。

その他の工夫

毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	「サステナブル」「持続可能な社会」「リーダーシップ」といった言葉を念頭にのいて日頃から新聞や雑誌、インターネットなどで政治、経済、経営、社会、技術、文化に関する記事をよく読んでおくこと。（事前学習30時間）
事後学修	授業で得た学びに基づいて日常生活の中でサステナブルな社会づくりの実践事例を見つけて理解する。 リーダーシップを発揮できる場面やテーマをみつけて実践してみる。（事後学習15時間）

教科書

教科書は指定しません。
スライドや配布するプリントで進めます。

参考書

必要に応じて授業中に指定します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点	40%	○	○								
レポート、発表	40%			○	○						
学期末試験	20%	○									

注意事項

課題の提出があります。
授業中に意見を求めたり、レポート課題のプレゼンを求めることがあります。

備考

2017年度以降の入学生のみ受講可能です。　アントレプレナーシップ入門の単位を取得済の場合は履修できません。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	河野憲嗣（企業経営者、全国銀行協会、人事担当）
実務経験をいかした教育内容	ビジネスのリアルな事例や金融サービスの視点からサステナブルな社会やリーダーシップについて解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
	大分のものづくりと地域づくりⅠ(Manufacturing and Community in Oita Ⅰ) (旧科目名：大分のものづくりと地域づくり)	経済学部 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	経済学部	後期	木5	氏名　河野　憲嗣 E-mail　kouno-kenji@oita-u.ac.jp　内線　7679

授業の概要	外部講師によるオムニバス形式の講義です。多彩な分野から講師をお招きして大分のものづくりや地域づくりを発展させるアイデア、方法を学びます。企業経営者や行政、NPOの関係者、各業界の専門家や実務家によるリアルな現場経験に基づいたお話しから、地域活性化のヒントを探求します。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	大分のものづくりと地域づくりにおける課題を発見、理解して説明できる。						○					
目標2	経験知・実践知を通じて社会課題の解決策としてのイノベーションの重要性について理解し、説明できる。				○							
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	ガイダンス
2	食品
3	農業
4	芸術
5	製造業
6	小売店
7	観光
8	中間まとめ
9	マスコミ
10	地域、商店街
11	NPO、ボランティア
12	教育
13	金融
14	行政（県庁、市役所など）
15	総括とまとめ（順番や内容は、変更することがあります）

アクティブラーニング				その他の工夫
	A:知識の定着・確認		・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだことをレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。	毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。
	B:意見の表現・交換	○		
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	講義予定の講師に関する情報について図書館やインターネットで事前に概要を調べておくこと。 講師への質問を１つ以上準備する。（事前学習30時間）
	事後学修	講義を聞いた上で、あらためて講義に関する情報を調べてレポートを作成することで学びを深め、学習を発展させる。（事後学習15時間）

教科書	各講師が必要に応じて指定します。
参考書	各講師が必要に応じて指定します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	70%	○	○								
試験	30%	○	○								

注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。現実の社会で起きていることを知り、大分の課題と可能性について理解を深めながら、いま暮らしている地域のことや社会全体への関心を広げてください。
備考	授業の内容や順番は講師の都合により変更する場合があります。 2017年度以降の入学生のみ受講可能です。※大分のものづくりと地域づくりをの単位を取得済の場合は履修できません。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	河野憲嗣（企業経営者、全国銀行協会、人事担当）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営者、技術者、芸術家、医療実務、マスメディア実務
実務経験をいかした教育内容	企業経営や実務の経験を通じて、現実の社会で求められる知識や考え方の習得を促進します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K432S301	製品開発論(Strategic Management for Product Development)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	金3	氏名　仲本　大輔 E-mail　daichan@oita-u.ac.jp　内線　7714

授業の概要	本講義は製品やサービスの開発に関わる様々なテーマを経営戦略論の観点から探っていきます。企業が存続し成長していくための方法の1つとして新製品や新サービスの開発がありますが、そのためには企業はいかなる経営戦略を策定し、組織を動かしているか、を理解することをねらいとします。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	企業の新規事業開発のあり方（新製品・新サービスの開発プロセス）について自らの視点で分析・考察できるようになる。										
目標2	企業の多角化戦略のあり方について自らの視点で分析・考察できるようになる。										
目標3	イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。										
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	経営戦略論の復習
3	市場地位別の戦略
4	企業の多角化戦略①
5	企業の多角化戦略②
6	企業の新規事業開発
7	社内ベンチャー①
8	社内ベンチャー②
9	社内ベンチャー③
10	イノベーションと企業の経営戦略①
11	イノベーションと企業の経営戦略②
12	イノベーションと企業の経営戦略③
13	製品アーキテクチャ論①
14	製品アーキテクチャ論②
15	業界標準をめぐる企業の経営戦略

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認		講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。		
B:意見の表現・交換				
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください（各回1h,計15h）。
事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください（各回2h,計30h）。

教科書	開講時に指示します。
参考書	・大滝精一･金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略[第3版]』有斐閣。 ・周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔（2009）『経営学1』『経営学2』実教出版。 他にも適宜紹介します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	90%										
小レポート	10%										

講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。

注意事項	レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。
備考	経営戦略論を受講してから受講するのがのぞましいです。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S401	市場開発論(Market Development Theory)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	後期	木2	氏名　松隈　久昭 E-mail　himatsu@oita-u.ac.jp　内線　7680

授業の概要	市場開発に関する理論と実践を学習し、市場開発の基本的理解を踏まえ、新たな市場を創造する際の課題を分析する基礎的能力を習得する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	市場開発を行うための基本的な方法を習得すること。										
目標2	消費者の心理や行動を分析できるようになること。										
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	市場開発の方法
2	市場開発の理論
3	デジタル社会のマーケティング
4	デジタル社会の消費者行動
5	ビジネスモデルの事例研究
6	デジタル・マーケティングの基本概念
7	製品戦略の事例研究1
8	製品戦略の事例研究2
9	価格戦略の事例研究1
10	価格戦略の事例研究２
11	チャネル戦略の事例研究１
12	チャネル戦略の事例研究２
13	プロモーションの事例研究１
14	プロモーションの事例研究２
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	テーマに関連する企業の市場開発行動を示すので、比較研究してほしい。それにより具体的な市場開発行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。30時間。
事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。20時間。

教科書	未定。初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。 テキストからレポート課題を指定します。
参考書	コトラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
レポート	40%										
試験	60%										

新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。
また、遠隔授業の時は、評価方法と割合を変更する予定です。

注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。 出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。
備考	中級レベルの科目のため、２年生以上の履修が適切です。 関連する科目は、マーケティング論、製品開発論です。
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S402	組織革新論(Organizational Change and Innovation)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期	金2	氏名　本谷　るり E-mail　motoya@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要

経営組織論の知識や理論を習得した上で、それらを応用して「組織の革新」を考える諸理論を学び、自ら考えることがこの講義のねらいです。企業組織が継続力を持つためには革新することが大きなポイントとなります。

企業の事例を見ながら、どのような革新をいかに行うか、また次の革新につなげることなどを考えます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	企業組織の革新や変革に関する理論を身につける。	○									
目標2	企業組織の継続と発展について、変革の理論を用いて説明することができる。	○		○							
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス、経営組織論の復習
2	組織のライフサイクルモデル(1)
3	組織のライフサイクルモデル(2)
4	組織と戦略のダイナミクス(1)
5	組織と戦略のダイナミクス(2)
6	組織文化の変革
7	組織学習(1)
8	組織学習(2)
9	組織化と進化(1)
10	組織化と進化(2)
11	前半の復習、中間試験
12	戦略的な組織変革(1)
13	戦略的な組織変革(2)
14	組織変革の事例(1)
15	組織変革の事例(2)

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	内容の理解、知識の習得ができたかを確認する課題を配布します。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	経営組織論の基礎知識が必要な科目です。経営組織論に関して不足すると思われる知識や理論に関わるテキストや文献を読んでから出席してください。さらに本科目に関する文献や論文も提示しますので、あらかじめ読んでおきましょう。(15～30h)
事後学修	授業内容を再度確認し、整理しましょう。各回で紹介する文献も参考にしてください。(15h) 配布する資料に記載されている課題に取り組みましょう。(15h)

教科書

講義期間にわたって常に用いる教科書はありません。
授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。

参考書

各回の講義中に関連する文献を提示します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
中間試験　12/16予定	50%	○	○								
期末試験	50%	○	○								

注意事項

・専門性が高いので、前期開講の経営組織論を履修しておく方がより理解が深まるでしょう。その他の経営学関連の科目も受講済みの学生さんにおすすめします。
・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。

備考

研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K432S302	研究開発マネジメント論Ⅰ(Research and Development Management Ⅰ)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	オンライン（同時双方向型、オンデマンド型）

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	前期	木1	氏名　河野憲嗣 E-mail　kouno-kenji@oita-u.ac.jp　内線　7679

授業の概要

研究開発は企業の競争力を左右する源泉として、主として製造業の領域で議論されてきました。現在はサービス業、例えばITや流通、また観光やエンターテインメントといった分野でも研究開発の重要性が注目されています。研究開発を成功裡に導くためのマネジメントの工夫について、ものづくりの事例からサービス業まで幅広く視野にいれながら考察します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	研究開発マネジメントの基本的な枠組みを理解し、説明できる。	○									
目標2	デザイン思考を使って自らのアイデアを深化させ、表現できる。		○								
目標3	ビジネスプランの策定を通じて研究開発マネジメントの重要性を体得する。			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	オリエンテーション　研究開発マネジメントを考える
2	生産システムの基礎
3	業務プロセス設計
4	サービスマネジメント
5	競争力の管理
6	研究開発力の構築
7	デザイン思考１　Observation 観察する
8	デザイン思考２　Ideation 発想する
9	デザイン思考３　Visualization 具体化する
10	デザイン思考４　Combination　創造する
11	研究開発とイノベーション
12	プレゼンと講評１（学生による発表）
13	プレゼンと講評２（学生による発表）
14	プレゼンと講評３（学生による発表）
15	まとめ　思考から実践へ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	○
C:応用志向	
D:知識の活用・創造	

・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。
・演習やプレゼンの機会を取り入れて、知識を体得し、他の学生から学ぶ機会を設けます。

その他の工夫

毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。
コメントシートを通じて授業の中で対応できなかった質問や感想に答えて、他の学生から学ぶ機会を設けます。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	指定した資料の読了または課題の作成（事前30時間）
事後学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など（事後15時間）

教科書

教科書は指定しません。
授業はスライドを使って進めます。

参考書

藤本隆弘（2001）『生産マネジメント入門Ⅰ』『生産マネジメント入門ⅡⅠ』日本経済新聞出版社

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点	40%	○	○	○							
レポート	40%		○	○							
期末試験	20%	○	○								

注意事項

授業中に意見を求めることがあります。
予習復習を励行することで授業を有意義な時間にしてください。

備考

地域創生教育科目。
リアルタイムのオンラインで開講します。

リンク

個人ホームページ
URL　https://kenjikouno.jimdo.com/

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験をいかした教育内容	ビジネスのリアルな動向と金融サービスの実務に関する視点から、研究開発マネジメントについて解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S403	ベンチャー起業論(Venture Entrepreneurship Theory)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	前期	木4	氏名　渡邊　博子 E-mail　watanabe-hr@oita-u.ac.jp　内線　7702

授業の概要

本授業では、ベンチャー企業の定義や概念を知り、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化について把握します。そのうえで、企業の創出にかかわるアントレプレナーシップ、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションなどの歴史や本質についての理解も深めていきます。また、日米におけるベンチャー企業の動向を知るとともに、ベンチャーを起業する際のビジネス的側面であるヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源の活用の仕方、起業のための条件や手法を具体的に考察していきます。さらに、ベンチャー企業の事例をふまえたうえで、今後のベンチャー企業のあり方を考え、自ら起業する可能性がある場合は、その態勢をとっていきたいと思います。実際にアイデアの創出を繰り返すとともに、事例をあげながら、特に地元大分のベンチャーや中小企業の創出、成長や発展、課題などについても詳しく取り上げていきます。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	一国経済の中でイノベーションやアントレプレナーシップの必要性と重要性を理解する。		○									
目標2	ベンチャー起業のビジネス的側面を具体的に把握し、起業に対する多くの知識を修得する。		○									
目標3	ベンチャー企業のこれからのあり方について考える。			○	○							
目標4	アイデアの創出を繰り返す。		○	○	○							
目標5	自ら起業する可能性がある場合は、その準備をする。				○	○	○					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	ベンチャー企業の定義と歴史、ベンチャー企業を取り巻く経済・産業・社会
2	イノベーションの概念と重要性
3	アントレプレナーシップと起業家像
4	日本およびアメリカにおけるベンチャー企業
5	ベンチャー起業のビジネス的側面（1）：新しい事業機会とその評価
6	ベンチャー起業のビジネス的側面（2）：アイデアの育成
7	ベンチャー起業のビジネス的側面（3）：収益の仕組み
8	ベンチャー起業のビジネス的側面（4）：販売や市場開拓
9	ベンチャー起業のビジネス的側面（5）：差別化や強み
10	ベンチャー起業のビジネス的側面（6）：事業計画書の作成
11	ベンチャー起業のビジネス的側面（7）：資金調達と資金管理
12	ベンチャー起業のビジネス的側面（8）：成長と目標
13	大分におけるベンチャー企業の事例研究（1）モノづくり分野
14	大分におけるベンチャー企業の事例研究（2）サービス提供分野
15	講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	事例研究、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど。	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修（15時間） 興味あるベンチャー企業を取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略についての調査（15時間）
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解（15時間）

教科書	忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門―ベンチャーの創造を学ぶ』〔新版〕（有斐閣ストゥディア）有斐閣、2022年。
参考書	・加藤厚海・福嶋路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー 伝統と革新、地域と世界―』有斐閣、2023年。 ・トーマツベンチャーサポート『起業の教科書』日経BP社、2016年。 ・松田修一『ベンチャー企業（第4版）』（日経文庫－経営学入門シリーズ）日本経済新聞社、2014年。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験結果	60%	○	○	○	○	○					
授業参加姿勢（アイデア創出、課題対応など）	40%	○	○	○	○	○					

上記のことをもとに総合的に評価します。

注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。
備考	地域創生教育科目
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	シンクタンク研究員等
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々
実務経験をいかした教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S404	金融イノベーション論(Finantial Innovation)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済	後期	月3	氏名　鵜崎　清貴（非常勤講師） E-mail　kuzaki@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要

金融イノベーションとは，IoTやビッグデータそして人工知能といった技術革新が金融と産業のあり方を大きく変え，これまでは考えられなかったような新たな金融サービスです。金融イノベーションは，プロダクト・イノベーション，プロセス・イノベーション，ソーシャル・イノベーション，そしてセキュリティ・イノベーションの４つのイノベーションが総合し，相乗効果を生むことにより，創出されます。金融イノベーションは，金融業からのみ生まれるとは限らず，他の産業からも生まれる可能性があり，産業の垣根 を越える，あるいは国境を超える競争となります。本講義では，金融イノベーションの意義と事例を明らかにするとともに，ビッグデータを解析できるRを用いてファイナンスを解説します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	金融イノベーションの専門用語を理解することができる。	○									
目標2	金融イノベーションの基礎を習得し，社会で生じている経済諸問題を理解できる。				○	○	○				
目標3	企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき，資格取得に役立つ。			○							
目標4	企業の社会的責任の重要性を理解できる。				○						
目標5	Rの基礎を学習できる。	○									
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション
2	金融イノベーションの意義
3	銀行業における金融イノベーション
4	保険業における金融イノベーション
5	Rの導入と基本的操作
6	収益率と回帰分析
7	イールドカーブと主成分分析
8	ポートフォリオ理論
9	資本資産評価モデル（CAPM）
10	金利スワップ
11	プライシングとツリーモデル
12	Black&Scholes 公式
13	モンテカルロシミュレーション
14	まとめ
15	予備日

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	講義中に問題を解き，知識の確認を行っています。また講義中に時事経済・経営問題を議論します。 ビッグデータを分析できる高度な統計ソフトであるRの取得に努めます。	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	日経新聞を読むように勧めています。
	事後学修	レポートや課題を出しています。

教科書	大崎秀一・吉川大介（2013）『ファイナンスのためのRプログラミング』共立出版。
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Editon (Prentice Hall). 市村昭三編（1995）『財務管理論』創成社出版年。 秋山裕（2018）『Rによる計量経済』オーム社。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
講義中の発言	20%										
レポート	30%										
期末テスト	50%										

注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公認会計士事務所顧問，株式会社非常勤監査役

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K443S401	イノベーション戦略論(Strategic Management on Innovation)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経済学部	前期	木3	氏名　仲本　大輔 E-mail　daichan@oita-u.ac.jp　内線　7714

授業の概要

本講義ではまず、イノベーションのきっかけとなる何らかのアイデアの誕生から製品化、さらには事業化に至るまでのプロセスと、その過程にある落とし穴について紹介します。そして、そうした落とし穴にはまらないようにするために企業はいかなる経営戦略を策定すべきなのか、組織のあり方をどのようにすべきなのかについて考えていきます。

また、昨今、イノベーションの成果を何らかの新製品や新サービスに具現化できたとしても、その担い手が長期的に競争優位や収益を獲得することが難しくなってきているケースが出てきています。本講義はなぜそのような状況が起きるのか、そしてそこから脱却する、あるいはそうした状況に陥らないようにするためにはどのような経営戦

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	イノベーションに関するニュース、記事に対し、理論的枠組みを用いて自らの視点で分析・考察できるようになる。										
目標2	イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。										
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	イノベーションのプロセス①　－イノベーションの普及曲線－
3	イノベーションのプロセス②　－事業化へのプロセスと落とし穴－
4	ケーススタディ①　－日本企業の課題－
5	破壊的イノベーション
6	ラディカル・イノベーションと既存企業①
7	ラディカル・イノベーションと既存企業②
8	ラディカル・イノベーションと既存企業③
9	製品アーキテクチャとイノベーション
10	モジュール化の進展とコモディティ化①
11	モジュール化の進展とコモディティ化②
12	脱コモディティ化の経営戦略①　－アーキテクチャ論の観点から－
13	脱コモディティ化の経営戦略②　－アーキテクチャ論以外の観点から－
14	ケーススタディ②　－脱コモディティ化の経営戦略－
15	まとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認		講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、イノベーションや企業経営に関連する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。
B:意見の表現・交換		
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	新製品開発や新サービス開発に代表されるイノベーションに関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください（各回1h）。
事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、イノベーションや企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください（各回2h）。

教科書

開講時に指示します。

参考書

・一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社。
・近能善範・高井文子(2011)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社。
・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略[第3版]』有斐閣。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	80%										
小レポート	20%										

講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を数回設ける予定です。その際に、そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらう予定です。

注意事項

レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。

備考

経営戦略論、製品開発論、イノベーション・マネジメント入門などを受講済みであることがのぞましいです。

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K443S402	研究開発マネジメント論Ⅱ(Research and Development Management II)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	オンライン（同時双方向型、オンデマンド型）

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経済	後期	木1	氏名　河野憲嗣 E-mail　kouno-kenji@oita-u.ac.jp　内線　7679

授業の概要

研究開発マネジメントの応用事例として「キャッシュレス化社会」を取り上げます。具体的な事例としてクレジットカードやICカード、チェック・トランケーションを取り上げ、これらの事例を通じて研究開発マネジメントに関する知識と理解を深めます。授業は研究開発マネジメントに関する基本的な理解があることを前提として進めます。決済システムについて講義の中で解説します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	研究開発マネジメントの成功と失敗の事例について理解し、説明できる。	○									
目標2	社会的課題の解決と研究開発マネジメントのあり方の関係について理解し、説明できる。				○						
目標3	研究開発マネジメントの知識に基づいて具体的なプランを作成、提案できる。			○							
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	オリエンテーション　研究開発とイノベーション
2	製品、サービスと研究開発
3	金融における研究開発マネジメント
4	日本の決済システム
5	キャッシュレスへの期待と課題
6	フィンテック
7	電子マネー革命
8	チェック・トランケーションについて
9	決済システムの先行研究、わが国及び諸外国の取組状況
10	決済システムの業界構造分析
11	衰退業界における戦略と戦略的撤退
12	プラットフォームとしてのチェック・トランケーション
13	発表会１
14	発表会２
15	総括とまとめ

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。 ・演習や個人／グループワークを取り入れて、知識を体得し、他の学生から学ぶ機会を設けます。
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向	○	
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。
コメントシートを通じて授業の中で対応できなかった質問や感想に答えて、他の学生から学ぶ機会を設けます。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	研究開発マネジメントに関する基礎知識を理解しておくこと。 教科書の該当項目を事前に調べて、分からない語句や内容を理解しておくこと。
事後学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など（事後15時間）

教科書

宮沢和正『かくして電子マネー革命はソニーから楽天に引き継がれた』インフォキュリオン、2018年
河野憲嗣『チェック・トランケーション研究ー決済の経営学による考察ー』学文社、2013年
他に配布資料やスライドを使って授業を進めます。

参考書

延岡健太郎『MOT技術経営入門』日本経済新聞出版社、2006年
中島真志・宿輪純一『決済システムのすべて　第３版』東洋経済新報社、2013年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点	40%	○	○	○							
レポート	40%		○	○							
期末試験	20%	○	○	○							

注意事項

「研究開発マネジメント論１」（前期）を履修済みであること。
または２つの科目について履修済みと同等の知識・理解を有していること。

備考

リアルタイムのオンラインで開講します。
受講時は基本カメラ、マイクともオフとします。

リンク

個人ホームページ
URL　https://kenjikouno.jimdo.com/

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験をいかした教育内容	ビジネスのリアルな動向と金融サービスの実務に関する視点から、研究開発マネジメントについて解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K443S403	ベンチャー実践論(Venture Practical Theory)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経済	後期	木3	氏名　渡邊　博子 E-mail　watanabe-hr@oita-u.ac.jp　内線　7702

授業の概要

本授業では、ベンチャー企業の定義や概念、関連するイノベーションやアントレプレナーシップ、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化などについてさらに理解を深めていきます。また、ベンチャー起業のビジネス的側面として、アイデアの育成、収益の出し方、販売促進や市場開拓、差別化や事業の強みなどを再認識したうえで、実際にビジネスプランを作成してもらいます。アイデアやテーマの選定、ビジネスモデルの構築とその事業可能性などについて考察しながら、様々な知識を用いてビジネスプランを考え、他者に説明する機会を設定します。また、ビジネスプランの実践として、実際に起業したり、アントレプレナーシップを身につけイノベーションに取り組んだり、課題解決の実践を行っていきます。本授業を自身のキャリアの一環として捉えてもらえるようにも実施していきたいと思います。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	イノベーションやアントレプレナーシップなどのベンチャーに関わる概念を確認し、社会と関連づける。		○									
目標2	ベンチャー起業のビジネス的側面を把握する。		○		○							
目標3	ビジネスプランの作成を通じて起業やベンチャーを考える。		○		○							
目標4	作成したビジネスプランを他者に説明する。		○	○	○							
目標5	場合によっては、作成したビジネスプランを実践する。				○	○	○	○				
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												

授業の内容

1	イノベーションとアントレプレナーシップ、現代社会における起業
2	ベンチャー起業のビジネス的側面（1）アイデアの育成、収益の出し方
3	ベンチャー起業のビジネス的側面（2）販売促進や市場開拓、事業戦略
4	ベンチャーの成長と多様なスタイル
5	ビジネスプランの必要性と実際
6	アイデアの育成やテーマの選定（1）モノづくり分野
7	アイデアの育成やテーマの選定（2）サービス提供分野
8	ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性（1）モノづくり分野
9	ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性（2）サービス提供分野
10	ビジネスプランの作成（1）概要や事業の内容、優位性など
11	ビジネスプランの作成（2）市場把握、顧客やユーザーの特性など
12	ビジネスプランの作成（3）資金や費用、考えられるリスクなど
13	作成したビジネスプランの発表（1）自分の発表
14	作成したビジネスプランの発表（2）他者の評価
15	講義のまとめ、ベンチャーや起業などのこれからのあり方

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、ビジネスプランの作成、プレゼンテーション、事例研究など。	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修（30時間）
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解（15時間）

教科書

教科書は使用しません。必要に応じて関連資料等を配布します。

参考書

・加藤厚海・福嶋路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー 伝統と革新、地域と世界ー』有斐閣、2023年。
・田所雅之『起業の科学ースタートアップサイエンスー』日経BP社、2017年。
・松重和美監修・三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験結果	60%	○	○	○	○	○					
授業参加姿勢（アイデア創出、課題対応など）	40%	○	○	○	○	○					

上記のことをもとに総合的に評価します。

注意事項

自主的・主体的な態度で授業に参加してください。

備考

前期開講科目の「ベンチャー起業論」を受講していると取り組みやすいです。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	シンクタンク研究員等
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々
実務経験をいかした教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S405	社会調査法(Social Research Method)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	金2	氏名　中本　裕哉 E-mail　y-nakamoto@oita-u.ac.jp　内線　7677

授業の概要

私たちの日常生活では，世論調査，市場調査などの社会調査に触れる機会が多い。しかし，そのような社会調査の手法や調査結果の解釈は必ずしも正確であるとは言えない。重要なことは，調査結果を公正かつ適切に解釈することである。本講義では，調査票調査を中心に社会調査の基本的な方法論を修得する。さらに，実際に調査を実施し，得られたデータに統計分析を適用することで，問題に対する解決策を議論する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	社会調査法の基礎を修得する。										
目標2	調査データに統計分析を活用し，問題に対する解決策を議論する。										
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	社会調査の企画I：講義
3	社会調査の企画II：グループ演習
4	調査の設計I：講義
5	調査票の設計II：グループ演習
6	ランダムサンプリング
7	実査I：講義
8	実査II：グループ演習
9	統計分析I：講義
10	統計分析II：グループ演習
11	調査データの分析I：講義
12	調査データの分析II：グループ演習
13	報告書の作成I：講義
14	報告書の作成II：グループ演習
15	まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	毎回，講義の終わりに小テストを実施する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造	○		

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	参考書などを使用して予習する。(15h)
事後学修	授業で扱う例題や小テストなどを通して復習する。(30h)

教科書

教科書を指定しない

参考書

盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣，2004年
大谷信介ほか著『（第2 版）社会調査へのアプローチ ― 論理と方法』ミネルヴァ書房，2005 年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	20%	○									
中間課題	20%	○	○								
レポート課題	60%	○	○								

小テスト，中間課題，レポート課題から総合的に評価する。調査の企画，設計，実査，分析，およびプレゼンテーション，報告書の作成は，グループワークで行う。

注意事項

「統計学」を履修していると理解が深まりますが、基礎的な統計手法は本講義で修得します。受講者には、グループワークへの積極的な参加（特に、自分の考えを発信すること）を求めます。

備考

リンク

URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S406	イノベーション社会論(Innovation and Society)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火2	氏名　豊島慎一郎 E-mail　stoy@oita-u.ac.jp　内線　7708

授業の概要	本講義では，情報通信技術(ICT)の革新に伴うコミュニケーションの変容や社会変動等の様々な社会現象を関連づけながら，社会学の観点からイノベーションの社会的・文化的な諸条件やプロセスを明らかにし，今後の政策的・実践的方策や社会システムのあり方を考える。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	「イノベーションの社会学」に関する基礎的知識や応用力を修得する。	○									
目標2	与えられた課題について，自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	講義説明
2	イノベーションと現代社会
3	イノベーションとまちづくり1(観光まちづくり)
4	イノベーションとまちづくり2(まちづくりNPO等)
5	イノベーションとまちづくり3(「農村イノベーション」)
6	イノベーションと高齢社会5(シニアSOHO)
7	イノベーションと高齢社会6(高齢者とICT活用)
8	中間のまとめ・試験
9	イノベーションと災害支援1(東日本大震災等)
10	イノベーションと災害支援2(災害支援とICT)
11	イノベーションと災害支援3(災害支援とSNS)
12	イノベーションと災害支援4(災害復興のまちづくり)
13	ソーシャル・イノベーションとは何か1（市民主体のまちづくり）
14	ソーシャル・イノベーションとは何か2（展望と課題）
15	総論

アクティブラーニング					
A:知識の定着・確認	○	小レポートの提出を毎回課す（Moodleを使用）。	その他の工夫	映像資料やMoodleの活用。
B:意見の表現・交換				
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。
事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。

教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は，Moodleにアップロードする。
参考書	野中郁次郎ほか，2014，『実践ソーシャル・イノベーション』千倉書房. 野中郁次郎編，2021，『共感が未来をつくる ： ソーシャルイノベーションの実践知』千倉書房. 大澤健・米田誠司，2019，『由布院モデル：地域特性を活かしたイノベーションによる観光戦略』学芸出版社.　ほか

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点(小レポート等)	50%	○	○								
中間・期末試験	50%	○	○								

小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。

注意事項	講義の進行上，スケジュールを変更する可能性がある。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S407	現代社会分析論(Contemporary Socio-Analytic Studies)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	火2	氏名　豊島慎一郎 E-mail　stoy@oita-u.ac.jp　内線　7708

授業の概要	本講義のねらいは，社会学的な視点から社会的課題の解決を目指して，現代社会における様々な現象を分析するための基礎的知識・応用力を修得することである。社会学の基礎理論および概念に関する理解を深め，それを基に現代社会を読み解いていく。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	社会学に関する基礎的知識や応用力を修得する。	○									
目標2	与えられた課題について，自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容	
1	講義説明
2	社会学とは何か
3	社会学の基礎理論1(自我と社会化等)
4	社会学の基礎理論2(社会集団等)
5	社会学の基礎理論3(支配と権力等)
6	社会学の基礎理論4(官僚制等)
7	社会学の基礎理論5(地位と役割等)
8	中間のまとめ・試験
9	社会学の基礎理論6(社会学の古典)
10	社会学の基礎理論7(デュルケムの理論)
11	社会学の基礎理論8(ジンメルの理論)
12	社会学の基礎理論9(ヴェーバーの理論)
13	社会学の基礎理論10(現代社会と社会学)
14	社会学の基礎理論11(市民社会と社会学)
15	総論

アクティブラーニング					
	A:知識の定着・確認	○	小レポートの提出を毎回課す（Moodleを使用）。	その他の工夫	映像資料やMoodleの活用。
	B:意見の表現・交換				
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて予習する(22h)。
事後学修	講義資料や参考書等の情報を必要に応じて復習する(23h)。

教科書	教科書は指定しない。 講義で使用した資料は，Moodleにアップロードする。
参考書	岩本茂樹,2015,『自分を知るための社会学入門』中央公論新社. 栗田宣義,2006,『図解雑学 社会学』ナツメ社. 日本数理社会学会監修・土場学ほか編,2004,『社会を＜モデル＞でみる―数理社会学への招待』勁草書房.

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
平常点(小レポート等)	50%	○	○								
中間・期末試験	50%	○	○								

小レポートおよび中間・期末試験の合格を単位取得の条件とする。

注意事項	社会学に関心がある者の受講を希望する。 講義の進行上，スケジュールを変更する可能性がある。
備考	
リンク	大分大学経済学部豊島研究室 URL　http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/toyosima/

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S408	イノベーション科学技術論(Innovative on Science and Technology)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3	経済	後期	月5	氏名　社会イノベーション学科長（渡邊博子） E-mail　watanabe-hr@oita-u.ac.jp　内線　7702

授業の概要

大分地場企業の経営者や現場責任者などに登壇いただき、当該企業を事例として、科学技術を活用したイノベーションとともに、実際に実現した技術例や製品開発、現状や社会との関係のあり方などについて理解を深めます。特に本授業では、より身近な事例を題材とすることで、イノベーションと科学技術の関係、イノベーションの実践、大分のものづくりや地域づくりなどについても学ぶとともに、将来の進路を考える際にも活用できる内容です。なお、この講義は、大分県雇用労働政策課とも連携しながら進めていきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	イノベーションの実践とそのもととなる科学技術との関係について、具体的に説明できる。	○		○							
目標2	イノベーションの活用事例とともに、制度や仕組み、またそれらをとりまく社会との関係について理解し、説明できる。			○	○						
目標3	大分におけるイノベーションの実践知や経験知への理解を通じて、自らの進路選択やキャリアプラン形成に活用できる。					○					
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	（有）ビューティフルライフ
3	イジゲングループ（株）
4	KIHARA Commons（株）
5	大分みらい信用金庫
6	（有）中村設備工業
7	小括とイノベーションの実践に関わるまとめ、これからの内容
8	（株）ミカサ
9	（株）エイビス
10	新電力おおいた（株）
11	T－PLAN（株）
12	大分デバイステクノロジー（株）
13	（株）オーイーシー
14	（株）大分からあげ
15	九州ナノテック光学（株）　（順番や登壇企業は変更することがあります）

アクティブラーニング		
A:知識の定着・確認	○	・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだ内容をレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。
B:意見の表現・交換	○	
C:応用志向		
D:知識の活用・創造		

その他の工夫

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	講師や関連する情報の収集、質問を考えてくる（事前学習30時間）
事後学修	授業での気づきの文書化（事後学習15時間）

教科書

・教科書は指定しません。各講師が必要に応じて指示します。

参考書

・各講師が必要に応じて指示します。

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
各回のレポート	60%	○	○	○							
期末試験	40%	○	○	○							

注意事項

社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。イノベーションと科学技術の関係やイノベーションの実践についての理解を深めるとともに、自らの進路やキャリアプランを考える上で、いま暮らしている大分という地域や企業、社会全体への関心を広げてください。

備考

地域創生教育科目

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	シンクタンク研究員等
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営者、現場責任者、プロジェクトリーダー等
実務経験をいかした教育内容	イノベーションに関わる経営手法や地域貢献、大分のものづくりや地域づくりに関わる講義など。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K443S409	知的財産論(Intellectual property Theory)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経	後期	火1	氏名　野田　佳邦（非常勤講師） E-mail　noda@oita-pjc.ac.jp　内線

授業の概要	企業において技術開発に従事する者に限らず、あらゆる社会活動を行う人々にとって、知的財産に関する知識は必須となっています。 産業財産権法と呼ばれる4法（特許法，実用新案法，意匠法，商標法）のみならず、情報化社会の発展により、著作権法、不正競争防止法など、実際の企業活動の実務において必要となる法律知識の重要性もますます高まっています。 この授業では、知的財産関連法について幅広く対象とし、現在の企業活動において必要とされる知識と実践的能力を会得することを目的とします。講義や検索演習を通じて、単なる教科書的知識ではなく、より実践的な知識・スキルの修得を目指します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	知的財産権の法体系上の位置づけ、その意味を理解できる。										
目標2	特許・実用新案・意匠・商標制度の概要を理解できる。										
目標3	知的財産情報の検索について理解できる。										
目標4	不正競争防止法、その他の関連法の概要を理解できる。										
目標5	著作権制度の概要を理解できる。										
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	知的財産権とは
2	特許・実用新案制度
3	意匠制度・デザインの保護
4	商標制度・ブランドの保護
5	知財情報の検索（１）J-PlatPatを用いた検索
6	知財情報の検索（２）J-PlatPatを用いた検索
7	不正競争防止法
8	その他の権利やルール、復習
9	中間試験
10	著作権（１）著作権制度の目的、意義、全体像、著作物
11	著作権（２）著作者、著作者人格権、
12	著作権（３）財産権、著作権の保護期間
13	著作権（４）著作権の制限
14	著作権（５）著作隣接権、侵害
15	総復習、まとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		D：知識の活用・創造　PCを用いた知財情報の検索演習を実施する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	知的財産に関するニュースをチェックし、自分なりの考えを持つこと（5h）。
事後学修	新聞などで知的財産に関する記事をチェックし、学修した内容と照らし合わせること（10h）。

教科書	「産業財産権標準テキスト 総合編 第5版」発明推進協会、野田佳邦「はじめての知的財産調査～創作したら調査しよう～」三恵社
参考書	野田佳邦「ちょさく犬が答える！SNS時代の著作権」三恵社

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
ミニレポート課題	20%										
中間試験	40%										
期末試験	40%										

注意事項	
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	特許審査官、弁理士
実務経験をいかした教育内容	知的財産制度について講義形式で授業を行うものです。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S410	進化経済学Ⅰ(Evolutionary Economics Ⅰ)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	木3	氏名　下田　憲雄 E-mail　nshimod@oita-u.ac.jp　内線　7683

授業の概要

経済学のモデル分析は様々な経済システムの相互作用を、相互の関係を分析することを目指している。この場合、ミクロ経済学やマクロ経済学においては、分析手段として最適化が重要な役割を果たしている。また、様々な動学理論、経済成長論や景気循環論といった時間を明示的に扱う議論もある。しかしながら、経済のシステム自体が時間の流れのなかでどのような変化をしていくのかを、またその諸システムがおかれている空間を議論するモデルはなく、こうした点に分析をすすめる分野として進化経済学が発展している。進化経済学Ⅰでは進化ゲーム理論の基礎の習得と経済学への応用などを概観する。
本授業では、進化経済学の内容を展望するものではなく、その基本的な概念や社会イノベーションとの関わりが深いものを勉強していく。よって、この授業ではその基礎を

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照) 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済システムの進化とは何かを理解できること、ならびにイノベーションとの関わりを理解することを目標とする。	○	○								
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション(進化経済学の様々な論点)
2	進化と経済学(1)
3	進化と経済学(2)
4	進化とゲーム理論(1)
5	進化とゲーム理論(2)
6	進化とゲーム理論(3)
7	中間的総括1（確認テスト）
8	進化ゲーム理論の応用(1)　進化的安定性と倫理
9	進化ゲーム理論の応用(2)　進化と社会制度(1)
10	進化ゲーム理論の応用(3) 進化と社会制度(2)
11	中間的総括2（確認テスト）
12	進化ゲーム論と経済学（１）
13	進化ゲーム論と経済学（２）
14	進化ゲーム論と経済学（３）
15	イノベーションと進化経済学

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	2回程度の中間的総括と小テストを実施する。小テストは講義中に30分程度を予定している。理解度が深まることを期待する。	
B:意見の表現・交換			
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	資料等により事前の予習を行う（30時間）
	事後学修	課題等を通じて知識の定着をはかる（15時間）

教科書	テキストは指定しないが、初回の講義のときに説明する。
参考書	『進化経済学とは何か』進化経済学会編　有斐閣

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
中間レポート	30%	○									
学期末試験	70%	○									

注意事項	
備考	ゲーム理論、ミクロ経済学、マクロ経済の知識が必要となるので、これらの知識についても予習をしておくことが望ましい。
リンク	
URL	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K432S303	ゲーム理論(Game Theory)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期	木2	氏名　下田　憲雄 E-mail　nshimod@oita-u.ac.jp　内線　7683

授業の概要	主に経済学の例を用いてゲーム理論の基礎を勉強します。多数の意思決定者相互の戦略的な関係を前提に、個々人がどのような行動を選択するのかを勉強します。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	相互の意思決定が影響し合う状況下での意思決定の問題を認識して、ゲームをプレーするプレイヤーがそれぞれ単独に意思決定		○								
目標2	非協力ゲームのゲームとしての状況を表現する戦略形と展開形ゲームならびに対応するゲームの解を求めることができる。		○								
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ゲーム理論とは
2	戦略的考え方・・・選択と意思決定
3	戦略ゲーム１・・・戦略的考え方と事例紹介
4	戦略ゲーム２・・・確率的戦略，経済学での応用事例
5	ナッシュ均衡１・・・再適応答とは。
6	ナッシュ均衡２・・・定義と計算方法
7	ナッシュ均衡３・・・確認テスト１
8	展開形表現１・・・ゲームの木
9	展開形表現２・・・展開形表現と戦略形表現の関係
10	部分ゲーム完全均衡１・・・情報完備性と展開形ゲーム
11	部分ゲーム完全均衡２・・・逐次手番ゲーム，確認テスト２
12	繰り返しゲーム
13	情報不完備なゲーム
14	ベイジアン均衡・・・確認テスト３
15	講義まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
	A:知識の定着・確認	○	講義内容に対応した問題を解答して提出してもらい、講義においてその解説を行う。	事例による理解によって、理論の意味を習得する。
	B:意見の表現・交換			
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	テキストや資料により予習する（30時間）
	事後学修	練習問題や課題の解答などにより，復習し知識の定着をはかる（15時間）

教科書	『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ　岡田章　有斐閣
参考書	『ゲーム理論』新版　岡田章　有斐閣

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト・レポート	30%	○	○								
学期末試験	70%	○	○								

注意事項	理解を確認するため、確認テストを3回程度実施する。
備考	関連科目：経済数学、統計学、経済学(I、II)、ミクロ経済学、マクロ経済学など
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K432S304	イノベーションの経済学(Economics of Innovation)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	火3	氏名　下田 憲雄 E-mail　nshimod@oita-u.ac.jp　内線　7683

授業の概要	シュンペーター以来、経済学におけるイノベーションは、経済の成長、経済発展や生産との関係で発展してきたが、制度的要因、企業の知的財産、ライセンスといった多岐の分野にわたっている。新しい技術の普及には様々な制度的要因が関わるが、中でも所有権の設定の重要性について、歴史上の技術革新の事例と突き合わせながら検討する。またイノベーションと直接関連のある知的財産制度及び競争政策について，経済学の視点から解説する.

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済学におけるイノベーションは、多様な形態で発展していること、またその重要性を理解することを目標とする。		○								
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	はじめに･･･経済学におけるイノベーションの役割
2	イノベーションとマクロ経済
3	生産関数とイノベーション
4	生産要素からみたイノベーション
5	科学技術の変化と経済発展
6	情報技術の進化と経済
7	イノベーションと市場の創出・進化
8	まとめ1　小テスト1
9	経済学とダーウィニズム１
10	経済学とダーウィニズム２
11	技術開発と経路依存性１
12	技術開発と経路依存性２
13	イノベーション，進化とゲーム理論１
14	イノベーション，進化とゲーム理論２
15	まとめ2　小テスト2

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	2回の小テストを実施し，理解度が深まることを期待する。		Moodleを活用した資料の提示、レポート提出を通じて学生の理解を確認する
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	Moodleにアップされる資料を使っての予習（30時間）
	事後学修	講義内容の復習，課題等の提出（15時間）

教科書	特に指定しない。 講義に関する資料を適宜moodleにアップする。
参考書	・W．ブライアン・アーサー『テクノロジーとイノベーション』みすず書房，2011年 ・進化経済学会『進化経済学とは何か』有斐閣，1988年

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
2回の小テスト	100%	○									

注意事項	公欠で小テストを受験できない場合は追試等を実施する。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S409	イノベーション学説史(History of Innovation Economics)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	経	後期	他	氏名　金子　創 E-mail　　内線

授業の概要	私たちの周囲には、私たちの日常生活を豊かにしてくれる様々な技術が溢れている。それらが私たちにとって使い勝手のよい形式で提供されているのは、これまでの（何らかの）「イノベーション」の結果と言え、その意味でイノベーションはありふれた現象と考えられる。本科目では、そのような現象が経済学においてどのようにとらえられてきたか、について歴史的に考察する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	誰の、どのような行動がイノベーションと呼ばれるか、を学ぶ。	○					○				
目標2	また、それが経済全体へどのよう影響をもたらすか、を整理する。	○		○			○				
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	イノベーションに関わる諸概念
3	企業家概念の起源
4	階級認識と企業家機能
5	階級の行動原理と経済動向
6	古典派における安定的な資本家
7	古典派以降における経営に関する理解
8	完全競争市場と経営
9	経営の役割: 生産要素の結合
10	経営の役割: 組織内差配の位置づけ
11	経営の役割: 仲介
12	独占企業と超過利潤
13	均衡と不均衡，到達過程
14	リスクと不確実性
15	まとめ

アクティブラーニング					
	A:知識の定着・確認	○	・授業内で議論の時間を設ける。 ・毎回課題（ディスカッションを 含む）を設け、理解を確認する。	その他の工夫	・LMS（Moodle）を活用する。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造	○			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	配布資料の理解（15h）
	事後学修	・復習（15h） ・課題（15h）

教科書	・教科書は指定しない。 ・配布資料を用いる。
参考書	・ウィリアム・J・ボーモル『自由市場とイノベーション』勁草書房、2010年。ISBN978-4326503421 ・I・M・カーズナー『企業家と市場とはなにか』日本経済評論社、2001年。ISBN978-4818813007 ・J・A・シュムペーター『経済発展の理論（上、下）』岩波書店、1977年。ISBN978-4003414712、978-4003414729

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	80%	○	○								
課題提出	20%	○	○								

注意事項	すべての課題の提出を単位取得の要件とする。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K442S411	制度の経済学Ⅰ(Institutional Analysis I)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4		前期	金2	氏名　田村　哲也 E-mail　ttamura@oita-u.ac.jp　内線　7706

授業の概要	一般に経済学は、合理的な個人を想定し、そうした個人間でおこなわれる取引を分析します。しかし、わたしたちは数多くの「制度」（ルール・予想・規範・組織など）に囲まれており、その影響を常に受けながら意思決定をし、経済活動をおこなっています。この授業のねらいは、そうした「制度」という視点から経済を分析する手法を学ぶことにあります。そのために必要な概念や専門知識について学びながら、日本経済、世界経済の動向を解説していきます。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	私たちの経済活動がどのような制度的影響を受けたものであるのかを把握する。	○					○				
目標2	制度という視点から、私たちが生きる資本主義経済についての理解を深める。	○			○						
目標3	制度について学ぶことで、現代経済の問題を考えられるようになる。	○		○	○		○				
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	制度とは
3	制度とホモ・エコノミクス（１）：諸個人の利潤追求行為
4	制度とホモ・エコノミクス（２）：諸個人の他者に対する同感
5	制度としての市場
6	組織としての企業
7	労働分配率の決定
8	グローバリゼーション下の企業行動
9	国際収支の変化とグローバルな不均衡
10	資本主義の多様性と制度的比較優位（１）：経済調整の多様性
11	資本主義の多様性と制度的比較優位（２）：制度的補完性と制度的比較優位
12	格差と制度（１）：格差の概観とその倫理・哲学的次元
13	格差と制度（２）：格差をどのように解消するか
14	政治的なものと経済的なもの
15	まとめ

アクティブラーニング					
	A:知識の定着・確認	○	毎回の授業終了後に、Moodle LMS上での「授業の事後課題」の提出を義務づける。その結果を踏まえ、必要と思われる場合には次回の授業の冒頭で取り上げ、補足的な説明を行います。	その他の工夫	Moodle LMSを活用します。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	配布資料を踏まえての予習（15h）
	事後学修	授業の事後課題への回答（30h）
教科書		教科書は指定せず、配布資料を用います。
参考書		・アブナー・グライフ『比較歴史制度分析　上』ちくま学芸文庫、2021年。ISBN　978-4480510112

成績評価の方法及び評価割合 評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験	60%	○	○	○							
授業の事後課題提出	40%	○	○	○							

注意事項	
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K443S410	進化経済学Ⅱ(Evolutionary Economics II)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経済学部	後期	木3	氏名　下田　憲雄 E-mail　nshimod@oita-u.ac.jp　内線　7683

授業の概要

経済学のモデル分析は様々な経済システムの相互作用を、相互の関係を分析することを目指している。この場合、ミクロ経済学やマクロ経済学においては、分析手段として最適化が重要な役割を果たしている。また、様々な動学理論、経済成長論や景気循環論といった時間を明示的に扱う議論もある。しかしながら、経済のシステム自体が時間の流れのなかでどのような変化をしていくのかを、またその諸システムがおかれている空間を議論するモデルはなく、こうした点に分析をすすめる分野として進化経済学が発展している。進化経済学Ⅱでは生物学の進化論、進化ゲーム理論などの発達を数理的な手法の導入をふまえて、多様な内容の理解を深める。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済システムの進化とは何かを数理的な手法をふまえて進化と経済の関係を理解することを目標とする。		○								
目標2											
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	進化ゲームと経済　概観
2	数学的準備（1）1変数のダイナミックスと微分方程式
3	数学的準備（2）1変数のダイナミックスと微分方程式
4	数学的準備（3）2変数のダイナミックスと微分方程式
5	数学的準備（4）2変数のダイナミックスと微分方程式
6	確認テスト１
7	2戦略の事例（1）
8	2戦略の事例（2）
9	2戦略の事例（3）
10	確認テスト２
11	学習と戦略（1）
12	学習と戦略（2）
13	学習と戦略（3）
14	確認テスト３
15	まとめ

アクティブラーニング				その他の工夫
	A:知識の定着・確認	○	講義の内容に対応した問題を解答して提出してもらい講義においてその解説を行う。	確認テストを３回行うことで、理解を深め、学習を深化させる。
	B:意見の表現・交換			
	C:応用志向			
	D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	資料による予習（30時間）
	事後学修	課題等による知識の定着（15時間）

教科書	資料を配布
参考書	『社会科学者のための進化ゲーム理論』大浦宏邦　勁草書房

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
確認テスト	30%	○									
学期末テスト	70%	○									

注意事項	確認テストを必ず受験すること。公欠等で受験できない場合は申し出ること。また数学は簡単な微分方程式を利用するため、数学への積極的な学習を求める。
備考	
リンク	URL

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
K443S411	制度の経済学Ⅱ(Institutional Analysis II)	社会イノベーション学科 社会イノベーション学科	対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	経	後期	金2	氏名　田村　哲也 E-mail　ttamura@oita-u.ac.jp　内線　7706

授業の概要

私たちは、私たち自身を取り巻く「制度」（ルール・予想・規範・組織など）から様々な影響を受けながら日々の意思決定を行っている。経済学は、典型的には「合理的」な個人を仮定し、そうした個人間の相互作用の帰結について分析する。しかし、そのことは、その個人が制度的な影響を何ら受けない、ということを意味しない。本科目では、ある制度の下で個人がどのような選好を持つか、またそれが持続的変化していくとき、どのように制度の変化をもたらすか、について経済学的および哲学的に考察する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	（直接に観測できないような要素も含 む）制度的影響をどのように捉える か、について学ぶ。	○		○							
目標2	その応用として、私たちがどのような 常識の下で生活を送っているか、につ いて見直す。	○			○		○				
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	イントロダクション
2	ルール
3	ゲーム
4	貨幣
5	相関
6	構成
7	規範性
8	読心
9	集合性
10	再帰性
11	相互作用
12	依存性
13	実在論
14	意味
15	改革

アクティブラーニング

A:知識の定着・確認	○
B:意見の表現・交換	○
C:応用志向	
D:知識の活用・創造	○

・事前にテキストの該当箇所を読んできたうえで、授業はそれを踏まえた議論を中心的におこなう。

その他の工夫

・LMS（Moodle）を活用する。

時間外学修の内容と時間の目安

準備学修	・予習（20h）
事後学修	・復習（15h） ・課題（15h）

教科書

Guala, F., 2016. Understanding Institutions: The Science and Philosophy of Living Together
購入の必要はない。

参考書

Heath, J.,2008. Following the Rules: Practical Reasoning and Deontic Constraint

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
課題提出	50%	○	○								
授業への参加度合	50%	○	○								

注意事項

毎回の出席及び発言そして課題の提出を単位取得の要件とする。
また授業は受講生が内容を予習していることを前提に進める。各回で取り扱うチャプターについて事前に読み込んでくることが必要となる。

備考

制度の経済学Ⅰを履修していることを前提とする。

リンク

URL